1コリント8：1−13　　「動機は愛」　　4/26/20

コリント教会の２つ目の質問、「偶像に捧げた肉を食べても良いのかどうか」について
A.「肉を食べても良い理由」1−6節
1.「知識の大切さ」1節
「次に偶像に捧げた肉についてですが、私たちはみな知識を持っているということは分かっています。」（新改訳2017）

2.「愛のない知識の危険」2−3節
①完全な知識を持っていない
伝道者の書 8：17
すべては神のみわざであることがわかった。人は日の下で行なわれるみわざを見きわめることはできない。人は労苦して捜し求めても、見いだすことはない。知恵ある者が知っていると思っても、見きわめることはできない。
ソロモンは、神の道を得ること、知ることは出来ない。3度繰り返している！不可能だから！
ローマ11：33
ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。

②愛はキリスト者の特徴　3節
1ヨハネ5：1
イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。
これが救われた者たちの特徴：神を愛し、兄弟を愛する。

その上で、パウロは信仰において強い人は、弱い信仰者の成長を助けることを教える。
ローマ15：1−3
私たち力のある者は、力のない人たちの弱さをになうべきです。自分を喜ばせるべきではありません。 2 私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。 3 キリストでさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかったのです。

3.「偶像と神」4−6節
①実在しない偶像　4−5節
そういうわけで、偶像にささげた肉を食べることについてですが、私たちは、世の偶像の神は実際にはないものであること、また、唯一の神以外には神は存在しないことを知っています。

SEE 5節：実在しない偶像のことを続けて教えている。
それらは神ではない。背後に存在しているのはサタン。
イザヤ14：13−14
13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』

②存在される神　6節
真の神とは：
●「唯一のお方」・「父なる神」　/　●「唯一の主」・「主イエス」
●「すべてを造られたお方」　/　●「すべてを造られたお方」
●「すべての被造物の存在の目的」　/　●「すべての被造物の存在の目的」
申命記6：4

B.「食べない理由」7−13節
1.「知識の乏しい人の存在」7節

2.「愛に基づいた行動」8−13節
①食への自由さ　8節

②愛の実践：つまずきとならない　9−13節
「罪だと信じていることを行うこと」は罪である。
ローマ14：23
しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。

パウロはの結論　13節
ローマ14：21
肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは良いことなのです。

1コリント10：23
すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが有益とはかぎりません。すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが徳を高めるとはかぎりません。